

JHRCA

日本ホテルレストランコンサルタント協会 関西支部

2月例会報告

2008年2月22日

JHRCA正会員 : ゲスト会員各位

1. 2月例会報告

今月の講師は、清水正会員の紹介により株式会社「トラベルニュース社」代表取締役奥坊 一広（オクボ カズヒロ）氏から『変化に立ち向かう観光地・宿泊業』と題して、ジャーナリストの分析を交えた観光地・温泉地で生き残りをかけた取り組みの実態についてお話をいただきました。概要は以下のとおりです。

(1) 観光地・温泉地の取り組み

今、最も元気な温泉地はどこか

ソーブランドで一時期有名だった滋賀県の雄琴温泉は現在10軒の旅館が地域の健全性をアピールして、修学旅行、若い女性まで取り込み17ヶ月連続で前年比をクリアする活況を呈している。ここにいたるまでには、

街ぐるみで環境の美化に努める。

10年の歳月をかけて旅館の跡継ぎとなる若手経営者が「塾」を開き、ライバル関係にある他の旅館の営業内容を熟知する仲間意識で結束して、地域のイメージチェンジに取り組んだことが上げられる。

珍しことには地域の消息に詳しいタクシーの運転手が揃って「べたほめ」し営業活動を活発に行い年間50万人（宿泊は40万人）の利用客を獲得顧客は主として地元の天津、京都より来訪する。「ジャラン」を有効利用したことにより他修学旅行を含め全国から万遍なく訪れる。

大歩危・祖谷温泉のまとめ

2005年に旅館別だった5軒の企画の一体化により、JTB, ANA とのパッケージを組み外国人交流などでまとまる。

湯原温泉の環境と泉質のこだわり

てんぷら油のバスで送迎し、バイオマス、温泉セラピストが指導するも業績は伸びない。これはお互いの営業協力が少ないため。

同じ加賀市でも山城温泉と片山津温泉の違いとは

山城温泉ではライバル意識はあるがまとまるも、片山津温泉は3軒の老舗旅館が仕切りまとめがない。

加賀温泉「おったからまつり」のまとめ

石川県は能登半島の観光に補助金を出しているが、加賀にはまとめがないため出さない。「おったからまつり」旅館の若手が中心になってイベントを盛り上げ各旅館の黒字に徹する。

道後温泉の百年の“景”

鉄筋の建物が増え昔の情緒が無くなった。歴史があるので百年先を考える企画が望まれる。

白骨温泉の「湯号」など6つの取り組み

泉質偽装で悪名を馳せたイメージダウンを払拭すべく10軒の源泉を持つ旅館が結束して取り組んでいる。

大山・中海エコツーリズム協会の立ち上げ

スタートしたばかりだが、これからの国民的意識に便乗して広域での活動に注目。

別府温泉・「オンパック」の広がり

必ずしも全員が宿泊するわけではないが街の散策と「泥パック」で女性客に伸び。

(2) 宿泊業の挑戦

北海道「阿寒湖グランドホテル鶴雅」(6軒を経営し、札幌からバスツアーを企画)が第2種旅行業免許を、「高山グリーンホテル天領閣」が第3種旅行業免許を取得。これらは試験的ながら新しい集客システムとして模索している。

1泊10万円を販売する伊香保温泉高級旅館「旅邸 諧暢(カイチョウ)楼」「福一」旅館と同じ経営、躯体内にあるある「旅館イン旅館」で、玄関、ロビー、食事処とサービス全般を福一と完全に分離し高付加価値を誇示している。

鳥羽の「海月」はボロ旅館ながら、ネットで若女将の笑顔と良い料理を「海島遊民くらぶ」を結成して利用客が応援し地域の活性化を果たす。

衰退する旅館の活性化法

経営者を変える。 不潔なところが多いので温泉とトイレの徹底清掃
料理を地産、地消の思想を強調 従業員の教育に機敏なサービスを優先
エコツアーのエコを教える堅苦しさから、より楽しく学べる工夫を

2. その他の報告

(1) 正会員連絡会(正会員の勉強会)の運営方法の一部を改定しゲスト会員で参加を希望する方の出席を求めることになりました。従って3月の例会案内の回答フォームも変更しました。

(2) 次回より月次例会の出席者相互の理解を深めるため、単なる名刺交換にとどまらず恒常的にお互いを知ることが目的として、事務局が作成する「名札」を着用していただくことになりました。

以上

JHRC A 関西支部事務局 山田 寛